

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29040 獣医の卵たちと一緒に、野生動物保護とその病気の関係について考えよう！



開催日：2017年8月1日 - 2日

実施機関：酪農学園大学

(実施場所) (酪農学園大学)

実施代表者：浅川 満彦

(所属・職名) (酪農学園大学・獣医学群・教授)

受講生：小学6年生20名

関連URL：

【実施内容】

1. [受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点]

(1) 本事業は、実施協力者である獣医学群の学生を講師とし、いま自らが学んで身に着けつつある技術や知識を活かしながら、実施代表者のフォローを受けつつ、参加者である小学生に研究成果をわかりやすく伝えていく点に特色がある。学生がいま現在、苦しみながら身に付け、あるいは感じている「野生動物を対象にした獣医師の役割」「何が本当の野生動物保護なのか」「研究を行う意味」について2日間をかけて講義した。普段は、講義を受ける側の大学生を講師とし、グループごとに講師が子供たちと一緒に考えながら徐々に掘り下げることで、子供たちが講師を身近に感じ、かつ内容を深く理解してもらえるようなプログラム作りを心掛けた。

(2) 野生動物獣医師の体験として、野生動物の捕獲器具の設置と放逐体験を行った。本年度は数種類のネズミが設置した捕獲器具にかかり、実施代表者の説明を聞きながら全員で観察を行った。捕獲器具の設置と実施代表者ならびに学生の説明を通して、野生動物が我々の生活圏に非常に近いところで生活している身近な存在であり、野生動物の病気が我々ヒトや家畜にも影響をおよぼす可能性があることを子供たちに感じてもらえたと考えている。そして、野生動物獣医師は怪我をした個体の治療もちろん大切ではあるが、病気(異常)の解明を行うことがとても大切であり、それを可能とするためには“研究活動が大変重要である”という道筋を立てて、子供たちにも容易に理解できるように研究活動の意義を説明した。

(3) むいぐるみクマの捕獲・保護として吹き矢体験や、メスや針を使用し、食用の鶏肉を切開・縫合する等の野生動物の救護模擬体験を行った。これにより、一般的な野生動物獣医師の役割である、個体の治療の現場や実態、その難しさを体験してもらった。

(4) 寄生虫の説明については、代表者だけでなく、学生にも発表時間を与え、現在学ぶ段階にある学生の視点から、より子供たちの理解を得やすいような講義方法を目指した。また、実際に多くの寄生虫の標本を用い、また各班に1つずつ顕微鏡を用意し観察させ、日頃、子供たちには馴染みの薄い寄生虫について観察してもらった。

(5) イラストを多用したテキストを作成し、小学校高学年の子供達が興味・関心をもてるように工夫をした。本事業のテーマのひとつでもあった「ワンヘルス」への理解については、紙芝居を用いて、子供の興味を引くとともに、イメージがつかみやすいように心がけた。

2. [当日のスケジュール]

【1日目】

12:30 ~	13:00 受付
13:00 ~	13:15 開校式: 挨拶、オリエンテーション、科研費の説明
13:15 ~	14:00 講義「野生動物の病気と保護活動」 ※講義の途中で10分間クッキータイム
14:15 ~	15:10 野生動物調査実習(野生動物医学センター・演習林)
15:25 ~	17:15 「獣医さんのツールを使おう!」「吹き矢麻醉法」
17:00	1日目 終了・解散

【2日目】

8:30 ~	8:50 受付
9:00 ~	10:30 野生動物調査実習(演習林)・動物標本観察(野生動物医学センター)
10:45 ~	12:00 寄生虫観察
12:05 ~	12:20 中央館屋上から調査地を俯瞰観察
12:30 ~	13:30 ランチョン形式による統括
13:45 ~	14:45 附属動物医療センター(附属動物病院)見学
14:50 ~	15:15 修了式: アンケート記入、未来博士号授与、集合写真撮影
15:15	2日目 終了・解散

3. [実施の様子]

参加した子供達は、普段大学生や研究者が使っている器具の使用方法を習い、好奇心旺盛に調査や実験に参加していた。また、捕獲器具にかかったネズミや標本等を興味深そうに観察し、次々と積極的に実施代表者ならびに学生に質問をしていた。

子供達が普段イメージしている“動物のお医者さん”とは少し違った、「こういった調査や研究も獣医師の仕事なんだ」という新しい発見をしてもらえたと感じている。

本プログラムを通じて、科研費研究の内容の理解という目的のみならず、「調査研究のおもしろさや難しさ」や「獣医師の仕事の幅広さ」も感じてもらったのではと考えている。

野生動物調査実習・「獣医さんのツールを使おう!」・「吹き矢体験」・紙芝居による説明



集合写真



4. 事務局との協力体制

- ・本事業は、大学・学務部研究支援課が参加者の募集から当日の運営、経理管理およびイベント実施に係る関係部署へ連絡・調整、広報活動を担当した。

5. 広報活動

- ・隣接する札幌市全域の小学生がいる家庭に配布される子供情報誌「エコチル」に募集案内記事を掲載した。
- ・本学園広報室と連携し、大学 HP に募集案内を掲載した。

6. 安全配慮

- ・事故防止のため、イベント時は、研究補助等専門的作業に慣れている研究室の学生を実施協力者とし、実施前から入念な打ち合わせとテストを行い、安全配慮に努めた。
- ・おおよそ受講者4、5名に対し、実施協力者の学生が1名以上つく班編成を行った。
- ・受講者および実施協力者である学生は、損保ジャパン レクリエーション補償プラン(傷害保険)に加入した。
- ・屋内・屋外にかかわらず、常に水分補給を行えるよう準備し、また、常に注意喚起を行うことで、熱中症防止対策を行った。
- ・野外調査の前日が雨であったため、地面のぬかるみ等を確認し安全面に十分に配慮した。

7. 今後の課題

本事業は、募集の段階から札幌市のほか、北海道外からも問い合わせを受け、定員の約3倍を上回る参加希望があった。少しでも多くの子供達を受け入れるべく調整を行ったが、受入体制や予算の制約上、定員分しか受け入れることが出来なかった。今年度は昨年度不選定となってしまった子供達、また最終学年である小学6年生の受入を優先したため、今回参加できなかった多くの子供達は来年度以降受け入れたいと考えている。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】 9 名

【事務担当者】

堀 美津穂 大学・学務部研究支援課 主任主事

玉田 哲也 大学・学務部研究支援課 主任主事